

平成28年度 事務事業の点検及び評価報告書

【評価内容】 評価：事業数：()=平成27年度評価事業数：前年比増減

S	=	1	事業	(2)	1減
A	=	30	事業	(24)	6増
B	=	28	事業	(34)	6減
C	=	0	事業	(0)	—
D	=	0	事業	(1)	1減
合計	=	<u>59</u>	事業	(61)	2減

※ 事業数の減少は、事業項目を集約したため。(平成27年度事業数：62事業→59事業)

平成 29 年 9 月 恩納村教育委員会

1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成 27 年 4 月 1 日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第 26 条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後に、村民に公表(HP 等)するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成 27 年 4 月 1 日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は 5 名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。教育委員会の代表者であり教育委員会議の主宰者である教育委員長は委員の互選により選出されます。また、教育公務員であり教育委員会事務執行責任者である教育長は教育委員の中から任命されます。教育委員長と教育長は兼任することはできないこととなっています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行います。教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者の中から、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は、4年とされており、平成29年度からは、平成27年4月1日に改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて、「教育長の任期が3年」、「新たに任命される委員の任期の特例で、1年以上4年以内」へと移行して参ります。平成28年度中における委員の任命はありませんでした。

平成28年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年月数	
委員長	大城肇	平成25年8月1日～平成29年7月31日	平成13年	2期7年8カ月	委員長(平成28年6月30日付)退任
委員	喜久山花菜子	平成26年10月1日～平成30年9月30日	平成26年	1期2年6カ月	委員長(平成28年7月1日付)就任
委員	島袋正重	平成25年5月1日～平成29年4月30日	平成13年	4期15年11カ月	
委員	吉山佳子	平成27年4月1日～平成31年3月31日	平成27年	1期2年	委員長職務代理者(平成28年7月1日付)就任
教育長	石川哲夫	平成25年4月1日～平成29年3月31日	平成21年	2期8年	教育長(平成29年3月31日付)退任

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜、臨時会を開催し、必要事項を審議し、決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成28年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日(木) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第1号 恩納村遠距離通学補助金交付要綱の一部改正について 4. 議案第2号 恩納村「心の教室相談員」設置要綱の一部改正について 5. 議案第3号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 6. 議案第4号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 7. 議案第5号 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果公表について 8. 議案第6号 恩納村子どもの読書活動推進計画(案)の策定について 9. 議案第7号 恩納村教育委員会所管施設等の指定管理者審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱について(追加議案) 10. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て総合支援モデル事業について ・中学校統合について ・沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会について ・学校訪問について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				・恩納村文化情報センター1周年について
5月定例会	5月20日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第8号 交流施設の設置及び管理に関する条例の制定について 4. 議案第9号 交流施設の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について 5. 議案第10号 恩納村教育委員会所管施設等の指定管理者審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱について 6. 議案第11号 前兼久区交流施設の指定管理者の指定について 7. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の意見交換 ・防衛局への空調補助要請について ・学校徴収金等取扱要綱要領について ・総合教育会議について ・学校給食アンケートについて ・子どもの貧困対策について ・児童生徒の問題行動等について
6月定例会	6月21日(火) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第12号 教育委員長を選任について 4. 議案第13号 恩納村立学校評議委員の委嘱について 5. 議案第14号 教育委員長職務代理者の選任について(追加議案) 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・地域懇談会の割当について ・事務事業点検について ・民生委員・児童委員協議会意見交換について ・村内小学校の英語の特区について ・議会一般質問について
7月臨時会	7月7日(木) 9:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第15号 恩納村立学校評議員の追加委嘱について 2. 議案第16号 「アジア圏内(文化・交流)体験プログラム」派遣事業実施要項の改正について 3. 議案第17号 平成27年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
7月定例会	7月21日(木) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第18号 恩納村教育委員会事務事業外部評価委員会設置要綱の一部を改正する要綱 4. 議案第19号 恩納村教育委員会事務事業外部評価委員会の委員の委嘱について 5. 議案第20号 恩納村心身障害児適正就学指導委員会委員の委嘱について 6. 恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について 7. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度外部評価委員会の日程について ・博物館・文化情報センター利用状況について ・投書について ・各学校の状況について ・無料塾について ・学校施設に視察について ・コミュニティースクールの勉強会について ・第5次恩納村総合計画(後期)について ・地域懇談会について ・恩納村立学校管理者研修について
8月定例会	8月19日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第21号 恩納村要保護及び準要保護児童生徒認定要綱の一部を改正する要綱について 4. 議案第22号 恩納村立学校評議員の追加委嘱について 5. 議案第23号 恩納村立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 6. その他協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館・情報センター利用状況について ・運動会の割当について ・無料学習塾について ・教職員の管理職試験について ・職場体験学習夢作文について ・特別授業研修会について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
9月定例会	9月23日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第24号 恩納村心身障害児適正就学指導委員会規則の一部を改正する規則について 4. 議案第25号 恩納村教育支援委員会委員の追加委嘱について 5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の利用者負担額について ・幼稚園管理規則について ・総合教育会議について ・運動会の割当について ・学習発表会の割当について ・商工会との意見交換会について
10月定例会	10月21日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. その他協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館・文化情報センター利用状況について ・全国学習学力調査について ・学校計画訪問について ・幼稚園の利用者負担額について ・問題行動について
11月定例会	11月21日(月) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第26号 恩納村社会教育施設の指定管理者の指定 4. 議案第27号 恩納村学校給食費徴収条例の一部を改正する条例について 5. 議案第28号 恩納村学校給食センター設置、管理及び職員に関する条例の一部を改正する条例について 6. 議案第29号 恩納村給食センター運営委員会規程の一部を改正する規程について 7. 議案第30号 恩納村給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について 8. 議案第31号 恩納村第3子以降学校給食費免除実施要綱(案)の制定について 9. その他の協議事項

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館・文化情報センター利用状況について ・ 県人事委員会からの要請について ・ 各種コンクールについて ・ 全国学力学習状況調査の結果資料について ・ 恩納村統合中学校について ・ 市町村教育委員会研究協議会について
12月定例会	12月21日(水) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議の概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第32号 恩納村立学校教職員自家用車の公務使用取扱要綱の制定について 4. 議案第33号 恩納村立学校職員の自家用自動車による救急輸送の承認に関する要綱の制定について 5. 議案第34号 恩納村立学校職員事故事務取扱規程の制定について 6. 議案第35号 恩納村立学校職員タイムレコーダー使用基準について 7. 議案第36号 恩納村教育の日表彰者の承認について 8. 報告第1号 平成28年度一般会計補正予算(第4号)について 9. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県人事委員会からの要請について ・ 児童生徒の問題行動について ・ 文教施策と予算に関する要望調査について
1月定例会	1月20日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第37号 平成29年度恩納村立喜瀬武原幼稚園の休園の承認について 4. 議案第38号 恩納村教育の日表彰者の追加承認について 5. 議案第39号 恩納村教育委員会所管施設の指定管理者審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱について 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職の病休について ・ 服務について ・ 教育の日実践報告会について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助について ・教職員人事異動内申書について ・幼稚園教諭・SSWの採用について ・学校給食について ・会計検査について ・新年度予算について
2月定例会	2月21日(火) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第40号 恩納村文化情報センター運営協議会委員の委嘱について 4. 議案第41号 恩納村立小中学校教職員安全衛生管理規程の制定について 5. 議案第42号 恩納村立小中学校職員ストレスチェック制度実施規程の制定について 6. 議案第43号 恩納村多目的施設の設置及び管理に関する条例の制定について 7. 議案第44号 恩納村多目的施設の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について 8. 議案第45号 恩納村多目的施設の指定管理者の指定について 9. 議案第46号 恩納村交流施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 10. 議案第47号 恩納村体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 11. 議案第48号 平成29年度公立学校管理職の定期人事異動内示(案)の承認について 追加日程第1 議案第49号 恩納村立学校処務規程の一部を改正する規程について 追加日程第2 議案第50号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について 12. その他協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・学びを確かめつなぐ集いについて ・村内児童生徒の生徒指導について ・卒業式の割当について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
2月臨時会	2月24日(金) 10:00	3階委員会室	5人	1. 議案第51号 平成29年度公立学校教諭等の定期人事異動の内示の承認について 2. 議案第52号 平成29年度恩納村教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について 3. 議案第53号 平成29年度恩納村立幼稚園定期人事異動内示(案)の容認について 4. その他協議事項
3月臨時会	3月3日(金) 10:00	3階委員会室	5人	1. 議案第54号 平成28年度一般会計第5号補正予算に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 2. 議案第55号 平成29年度一般会計予算(案)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 3. その他協議事項
3月定例会	3月22日(水) 10:00	3階委員会室	5人	1. 前回概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第56号 学校支援地域本部運営委員の委嘱について 4. 議案第57号 恩納村心の教室相談員の委嘱について 5. 議案第58号 平成29年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 6. 議案第59号 教育行政に関し、相談に関する事務を行う職員の指定について 7. 議案第60号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について 8. 議案第61号 恩納村社会教育指導員の委嘱について 9. 議案第62号 恩納村社会教育委員の委嘱について 10. 議案第63号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 11. 議案第64号 恩納村博物館非常勤館長の任命について 12. 議案第65号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について 13. 議案第66号 恩納村立学校職員タイムレコーダー使用規程に制定について 14. 議案第67号 恩納村要保護及び準要保護児童生徒認定要綱の一部を改正する要綱について 15. 議案第68号 恩納村特別支援教育支援員配置要綱の一部を改正する要綱について 16. 議案第69号 恩納村文化情報センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 17. 議案第70号 恩納村指定文化財の指定について 18. その他協議事項 ・一般質問について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭・SSWの採用について ・村内生徒の高校入試の結果について ・入学式の告示について ・辞令交付式の日程について
【参考】 恩納村総合 教育会議	平成28年5月25日(水) 9:30	3階会議室	6人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一部奨学金給付型(案)の実施について 2. 高校への通学費等の助成(案)について 3. 給食費の一部無料化(案)について 4. 恩納村教育大綱(平成27年度～平成29年度)の進捗状況について 5. その他(周知報告関係) <ul style="list-style-type: none"> ・村内各学校での事件及び事故等の周知について(いじめ等) ・全国学力学習状況調査の速報値について ・子どもの貧困対策関連事業について ・防音事業維持管理費の継続補助について
	平成28年10月21日 (金) 9:30	3階会議室	6人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 恩納村第3子学校給食費免除(案)の実施について 2. 中学校統合の進捗状況及び方向性について 3. 児童の所在確認について 4. その他情報交換及び意見交換

なお、教育委員会で平成28年度中に審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規定・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
7件	25件	24件	14件	70件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、学力向上やいじめ問題等の状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成28年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成28年4月1日	役場1・2階会議室・1階会議室	平成28年度村職員辞令交付式(教育委員会・村辞令交付)	大城委員長、石川教育長
4月4日	総合保健福祉センター	平成28年度教職員辞令交付式	全教育委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成 28 年 4 月 7 日	恩納小中学校体育館(中学校)	恩納中学校入学式	石川教育長(告辞)
4 月 8 日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館(小学校) 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式(恩納校：小学校のみ)	喜久山委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞) 吉山委員(告辞) 島袋委員(告辞)
4 月 11 日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式	島袋委員(告辞) 石川教育長(告辞) 喜久山委員(告辞) 吉山委員(告辞)
4 月 27 日	ゆうなホール	恩納村観光協会設立式典・祝賀会	大城委員長
4 月 28 日	校務研歓迎会	ムーンビーチ	全委員
5 月 16 日	役場 2 階会議室	村学力向上推進委員会総会	全委員
5 月 17 日	喜瀬武原小中学校	学校計画訪問	全委員
5 月 23 日	ゆうなホール	恩納村観光協会総会	大城委員長
5 月 21 日	赤間運動公園	第 5 回恩納村・金武町小学生交流陸上競技大会	全委員
5 月 25 日	役場 3 階常任委員会室	平成 28 年度第 1 回恩納村総合教育会議	全委員
5 月 26 日	恩納幼小中学校	学校計画訪問	全委員
5 月 31 日	仲泊幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6 月 2 日	山田幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6 月 7 日	安富祖幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6 月 30 日	恩納村慰霊塔	村慰霊祭	全委員
7 月 7 日	役場 3 階常任委員会室	教育委員会臨時会（事務事業点検評価報告書説明）	全委員
7 月 27 日	ゆうなホール	少年の主張意見発表会	全委員
9 月 14 日	OIST	英語ストーリースピーチコンテスト	全委員
9 月 15 日	役場 2 階会議室	未来塾開校式	全委員
10 月 2 日	安富祖幼小中学校 恩納幼小中学校 仲泊幼小中学校 山田幼小中学校	運動会	喜久山委員長 石川教育長 大城委員 吉山委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
10月9日	喜瀬武原幼小中学校	運動会	島袋委員
11月3日	ゆうなホール	村文化祭(文化協会)	大城委員
11月25日	村博物館	村文化展(オープンセレモニー)	大城委員
〃	恩納幼小中学校	村教科等指定研究発表会	全委員
12月4日	安富祖幼小中学校 仲泊幼小中学校 山田幼小中学校	小学校学習発表会・実践報告会	喜久山委員 大城委員 吉山委員
12月11日	喜瀬武原幼小中学校 恩納幼小中学校	小学校学習発表会・実践報告会	島袋委員 石川教育長
12月15日	役場2階会議室	アジア圏内「文化・交流」体験プログラム派遣事業報告会	喜久山委員長、大城委員
平成29年1月4日	コミュニティーセンター大ホール	村成人式	全委員
1月25日	コミュニティーセンター大ホール	村学力向上推進事業(教育の日関連表彰式)	全委員
1月29日	ゆうなホール	村学力向上実践報告会「学びをたしかめ・つなぐ集い」	全委員
2月3日	リザンシーパークホテル	川上村・恩納村友好都市調印式	全委員
2月4日	ふれあい体験学習センター	村産業まつりオープニングセレモニー	全委員
2月10日	北谷町役場	中頭地区第3回教育委員会理事会	喜久山委員長
2月11日	うるま市芸術劇場ホール	中頭地区学力向上推進実践報告会	全委員
3月2日	役場2階会議室	未来塾閉講式	全委員
3月11日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	中学校卒業式(喜瀬武原小中学校合同)	喜久山委員長(告辞) 島袋委員(告辞) 石川教育長(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
3月22日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	修了式	島袋委員(告辞) 石川教育長(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員長(告辞)
3月23日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館	小学校卒業式(喜瀬武原小中学校合同)	島袋委員長(告辞) 石川教育長(告辞) 大城委員(告辞)

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
3月23日	山田小学校体育館	小学校卒業式	吉山委員(告辞)
3月31日	役場2階会議室	役場退職者辞令交付式	喜久山委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成28年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
4月15日	北谷町	中頭地区市町村教育委員連合会研修	大城委員長
5月12日～13日	浦添市てだこホール	沖縄県教育委員会連合会総会並びに研修会	全委員
5月12日～13日	東京都	全国町村教育長会	石川教育長
5月20日	北谷町ニライセンター	中頭地区市町村教育委員会研修会	全委員
7月7日	地域懇談会(教育委員会)	仲泊幼小中学校	大城委員
〃	〃	喜瀬武原幼小中学校	吉山委員
7月15日	総合保健福祉センター	村民生・児童委員との意見交換会	全委員
7月22日	安富祖公民館	地域懇談会(教育委員会)	喜久山委員長
7月25日	役場2階第1・2会議室	村校務研究会・教育委員会管理者合同研修会	全委員
7月25日	名嘉真公民館	地域懇談会(教育委員会)	喜久山委員長
7月26日	谷茶公民館	地域懇談会(教育委員会)	島袋委員
7月26日	山田幼小中学校	地域懇談会(教育委員会)	吉山委員
7月27日	瀬良垣公民館	地域懇談会(教育委員会)	大城委員
7月28日	恩納公民館	地域懇談会(教育委員会)	島袋委員
10月12日	那覇市パレット久茂地	県市町村教育委員研修会	全委員
10月14日	北谷町役場	中頭地区市町村教育委員理事会	喜久山委員長
10月18日	コミュニティーセンター中会議室	教育行政等に関する意見交換会(商工会理事)	全委員
10月21日	役場3階常任委員会室	平成28年度第2回恩納村総合教育会議	全委員
平成29年1月13日	北谷町ニライセンターカナイホール	中頭地区市町村教育委員会協議会	全委員
2月13日	県庁	平成28年度教育委員・教育長研修会	全委員

3 事務の点検評価について

平成28年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の8項目とし、事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の3項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取組みは1年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとしします。

評価の方法については、次のとおり5段階で評価しました。

S：目標以上に事業効果をあげることができた。

A：目標が達成できた。

B：目標が概ね達成できた。

C：目標が一部しか達成できなかった。

D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成28年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成27年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成28年度の取組み)	事業の成果 (平成28年度の成果)	今後の課題 (平成29年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会研修事業(宮里)(石川) No.1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	子供の貧困関連の対策等が問題視され今後、地域の民生委員等との情報交換を実施し、地域、学校、行政で実情を把握していく。	定例教育委員会(毎月)の時間を繰り上げて教育委員会単独の勉強会を継続して開催し、情報の共有化及び教育委員会各種事業の研究等を実施した。又、昨年度の課題であった子供の貧困及び人財育成等の情報交換として、村民生・児童委員及び村商工会理事会との	教育委員会での勉強会及び研究等を実施したことで情報交換が充実し、児童・生徒へのきめ細かい対応ができた。又、村民生・児童委員及び商工会理事会との意見交換会において様々な意見を聴取し、教育委員会ができる支援事業の研究材料として活用できた。	平成29年度より新教育長制度に伴い、教育委員長は、廃止されますが、今後においても子どもの貧困対策を調査・研究し、研修会の充実に努め、総合教委会議での意見交換に活用していく。 又、中学校統合に	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
			子どもの貧困及び人財育成関係の意見を聴取し、教育委員会の支援事業の調査・研究に努めた。		向けた視察・研修の充実を図る。		
学校評議員設置事業(稲福・宮里) No.2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置する。	学校評議員設置のための人員確保が難しく、人選に苦労している学校が多い。	各学校において、評議員から頂いた課題対策について、村定例校長会等を通して情報提供してもらい、共通理解を図る。 人員の確保についてはPTA等の関係機関に情報提供をお願いした。	学校評議員から各学校への意見を校長会等の会議で共有することで、各学校経営の現状を把握し、課題について共有して改善に努めた。	各学校評議員から出された共通の課題を収集し議論する場の設定が必要。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会(稲福・永川) No.3	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	教頭会での学習会を実施することができなかつたので、次年度校長会同様に開催できるようにする。	教頭会の開催に学習会を30分設定し、共通理解を図り、情報交換とともに課題解決を図る。	教頭会の終了後に必要に応じて情報交換を行ったことで、共通理解が図られ各学校間の行動連携につながった。	校長会・教頭会ともに必要に応じて合同の会議を増やす必要がある。(H28は2回合同で行った。)	B	①現状の内容で継続
教育相談事業(石川) No.4	配慮を要する幼児・児童・生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。 学校からの派遣要請を受け、不登校児童・生徒の状況に沿った支援を実施する。	相談用電話の土日祝祭日等の対応を今後、検討(県、NPO等との連携)し、子どもたちからの緊急電話等の対応を構築すること。	教育相談員室への電話の新設を平成27年度途中から行い、不在の際の転送機能を1年間実施した結果、不都合がなく、外部対応が可能になった。 昨年度の課題においては、土日祝祭日等の対応は、県、NPO等関連の電	平成27年度より相談用電話を設置したことで直通及び代理応答が可能となり、外部からの相談等をスムーズに行うことができた。 不登校児童・生徒への対応で、教育相談員を学校への派遣(学校要請)を	様々な事情の不登校児童・生徒が増えており、特に特別な支援を要する児童・生徒との重複が目立つため今後は、SC(スクールカウンセラー(県費)学校内の相談)・SSW(村費)	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
			<p>話対応が可能のため関係機関の連絡先の周知を行い、村単独の設置は、行わなかった。(県及び NPO 等への転送機能)</p> <p>【教育相談員の活動】</p> <p>① 情報交換等：10 件</p> <p>② 児童生徒支援及び学校派遣等：67 件</p> <p>③ 講演会参加等：17 件</p> <p>④ SSW ケース会議等：14 件</p> <p>⑤ 教材研究・その他：28 件</p> <p>合計：139 件</p> <p>教育相談員の活動においては、児童生徒の状況に応じて学校派遣を行い、登校へと繋げる活動を実施した。</p>	<p>継続的に行うことによつて不登校等の課題を抱えた児童生徒に迅速に対応することができた。</p>	<p>家庭支援や関係機関へのつなぎ）・教育相談員(村費)不登校等の相談・対応等)の連携の強化を要する。</p> <p>又、教育委員会、学校、保護者、関係部局との情報の共有を図り、不登校児童・生徒の登校へと繋げる。</p> <p>不登校児童・生徒の対応において教育相談室及び支援施設等への通学を登校及び欠席扱いとするかの判断基準を策定し、各学校へ適用させていく。</p>		
教育委員会学校計画訪問(稲福) No.5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	学校経営の具現化を確認するために、学校評価をマネジメントサイクルで報告する体制を図る。	<p>学校での教育活動を年間通して支援するために、指導主事による支援訪問を実施する。</p> <p>学校訪問時に課題のある教諭等への支援・指導を行い、授業改善を促した。</p>	<p>指導主事による年間を通した学校支援訪問の実施により、各学校の学校運営が充実してきた。</p> <p>授業改善工夫が見られ、児童・生徒への学習指導が充実した。</p>	<p>村学推の実践項目等を学校経営計画に位置付けさせ、村学力向上推進計画との整合性を図る。</p> <p>特別な支援を要する児童・生徒への対応が担任主体で行われているので、全校体制で取り組む。</p>	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
奨学資金貸与事業 (喜久山) No.6	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	近年申込者全員へ貸与が行われていることから、提出書類の簡素化や給付型奨学金制度の検討を行いたい。	貸与については、補正予算で増額し申込者全員に貸与ができた。奨学金の返還については催告等を行った結果、滞納者の減につながった。	奨学金申込者全員に対し貸与を行うことができた。(県内 27 名・県外 14 名) 貸与額は 13,980 千円で徴収額は 13,783 千円、寄付金 1,263 千円で収入合計は、15,046 千円となり 1,066 千円の収入増となった。	ここ数年課題としている提出書類の簡素化については、新規の給付金(入学準備金等)を検討しながら慎重に進めていきたい。 奨学資金貸与事業の中で、基金条例の改正を行い、低所得者への給付型準備金(仮称)の検討を行う。	A	①現状の内容で継続
キャリア教育事業 ・職場体験学習 ・職場見学 (永川) No.7	児童生徒を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	(株)ケーオーパートナーズ(キャリア教育の充実を図る、インターンシップやジョブシャドウイング等効果的に行うためのカリキュラム作成や事業所開拓を支援する団体)や関係機関の資源を活用し、キャリア教育の充実を図り、職場体験学習の更なる充実を図る。	(株)ケーオーパートナーズの事業説明を校長会、教頭会で行い、活用につなげる。また、職場体験学習では、村内事業所に協力を依頼する。	村内の多くの事業所に協力してもらい、職場体験学習に取り組むことができ、(株)ケーオーパートナーズと連携したキャリア教育を実施したことで、生徒の事後(夢作文コンクール等)報告で、キャリアに関する効果があった。	今後も村内事業所や関係機関との連携を継続していく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
幼稚園教諭研修会 (稲福) No.8	村内 5 幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	定例の研修会において、専門の講師を招聘し、講話等を通して幼稚園教諭の資質向上を図る必要がある。	毎月の定例会を計画・実施し、情報共有及び行動連携に努める。 年 1 回(7 月)の幼稚園教諭と教育委員会事務局の意見交換会の中で、特別な支援を要する幼児へのきめ細かい支援に取り組んだ。	研修会を定例化することにより、幼稚園運営及び意見交換が充実し、各園の課題の改善が図られた。又、各園の現状(特別支援幼児等)を把握でき、各園のきめ細かい支援体制が整った。	定例の研修会において、講師を招聘した研修会を継続して開催し幼稚園教諭の資質の向上を図る。特に特別な支援を要する子の対応については緊急に取り組む必要がある。	A	① 現状の内容で継続
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業(喜久山) No.9	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	各幼稚園のスペースを考慮し最適な遊具の種類を選択し整備を図る。	各幼稚園の現状に応じた整備できる遊具等の検討を行い、スペースの問題等で新規で整備が困難な箇所は修繕等を行った。	園児が増えた幼稚園については児童用椅子、シューズボックスの購入を行い対応した。恩納幼稚園に関しては、補助事業を活用し遊具の整備を行った。	遊具整備が可能な園については、最適な遊具を選択し整備を行い、新規での遊具設置が困難な園については修繕で安全性を確保したい。	A	① 現状の内容で継続
幼稚園教育の推進 (稲福) No.10	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	各園での特色ある保育活動を村内全園で情報共有する必要がある。	年間計画に沿った幼児期養育事業の展開。 月例の幼稚園会において情報交換を行い、園庭等での稲作や野菜等の栽培を実施し、食育を含めた幼稚園教育の充実を図った。 村の年間計画に沿った幼稚園教諭の研修会を充実させ効果のある取り組みを全園で共有化を図った。	自然環境・人的環境を活かした各幼稚園において特色ある幼稚園教育の活動が実施され、園児の成長が見られた。	新幼稚園教育要領について周知徹底を図るために研修会を行う必要がある。 村内幼稚園においては、小規模幼稚園のため合同幼児教育の実施を要する。 恩納幼稚園を中心に合同保育を実施し、40 名規模の一斉指導を実施する。	B	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
教育振興備品整備 事業(喜久山) No.11	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	より活用頻度の高いデジタル教材やアプリ等を整備し、ICT 教育機器をより効果的に使う。	平成 27 年度で各校の ICT 整備が完了したが、効果的に機器を使うためデジタル教材等を含めたソフトの導入を検討した。	中学校におけるデジタル教科書の整備を行った。小学校特別支援教室のアプリを整備しわかりやすい授業の確立に努めた。	予定されている英語の教科化に対応するため英語のデジタル教材を整備する。	A	①現状の内容で継続
就学支援事業 (松崎) No.12	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に支援を要する児童生徒の教育の充実を図る。	申請が遅れる家庭もある為、周知方法等を検討する。引き続き SSW・学校事務職員と連携を取り、経済的支援を進めていく。	年度途中に全児童生徒を対象に、制度についてのお知らせを配布。申請が遅れ援助が受けられていない世帯の状況を考慮し、申請期間に幅を持たせる。	遡及対象申請期間が 9 月まで延びたことにより、4 月認定者の増加。周知に関しては、県の取り組みや事務との連携により、進んできている。	次年度より添付書類の省略を開始。援助額等の変更も検討しており、他市町村と比較しながら、今後も就学援助の適切な実施に努める。	B	①現状の内容で継続
心の教室相談員配置事業 (永川) No.13	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	心の教室支援員同士による事例紹介および研修会により、相談員の資質能力が高まりつつある。	心の教室相談員研修会で情報交換を行うと同時に未然防止や児童生徒の抱える課題についての解決事例を紹介させる。	心の教室支援員同士による事例紹介および研修会により、児童生徒への対応の仕方について共通理解ができ、対応の充実が図られている。	今後も研修会を通して、資質能力の更なる向上を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
教育の情報化コー ディネーター (喜久山) No.14	恩納村立幼稚園・小 中学校における学校 I C T 環境整備に対する 提案とその効果的な活 用、情報化による授業 改善や児童生徒への直 接指導、テレビ電話シ ステムを活用、リスク マネジメント、情報機 器を活用した情報公 開・広報等について専 門的知見から教育の情 報化を推進するために 派遣する。	校務用 P C のセキ ュリティ強化のた めの方策を検討し、 専門的知識を生か し、学校の担当と情 報を交換しながら 校務支援ソフトの 選定を行う。	校務用 P C のセキ ュリティ強化のため、教職員 全員へ U S B 型のセキ ュリティシステムを導入し 他者が P C を操作できな いようにした。 既存の校務支援ソフトが 有償化されることに伴い 情報担当教職員と新シ ステム導入に向けた研修会 を行った。	I C T 教育機器の有効活 用するための研修等を行 い、よりわかりやすい授 業の構築が図られた。 各学校における情報教 育機器のトラブルにつ いて、保守委託先の業者と 調整を行い専門的知識を 生かし最適な対処をし た。	統合中学校の I C T 整備に向けて整備 計画を行い、最適な 機種を選択する。	B	①現状の内容 で継続
学習支援員配置事 業(永川・喜久山) No.15	学校教育の課題であ る児童生徒の学力向上 に資するため、各学校 へ学習支援員を配置 し、算数・数学を中心 としたきめ細かな指導 を実施する。	学習支援に関す る支援員のスキル アップを更に図る ため、村主催による 研修会の回数を増 やしていく必要が ある。	学習支援員のスキル アップを図るために、各配 置校における教職員との 情報連携及び、スキル アップ研修会の充実を 図る。	各配置校における学習 支援員の積極的な活用及 び、スキルアップ研修会 等通して、支援員のスキ ルアップが図られつつあ る。	スキルアップ研修 会等において、具体 的な支援事例の共有 化を図り、更なる支 援の充実を図りたい	B	①現状の内容 で継続
特別支援員配置事 業(稲福・喜久山) No.16	障がいのある幼児児 童生徒の自立や社会参 加に向けた主体的な取 組みを支援する。	児童生徒の個々 のニーズにあった、 支援を行い、新規の 支援学級設置を検 討する。	新規で山田小(知的) 仲泊小(情緒)山田中(情 緒)安富祖中(知的)の 特別支援学級が設置され た。	支援を要する児童生徒 に対し、小学校 7 名、中 学校 4 名の支援員を配置 し、児童生徒へきめ細か い対応ができた	近年、特別な支援 を要する児童生徒が 急増し、他市町村も 支援員の増が見込ま れることから人材の 確保に努める。	A	②事業を拡大 して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
英語指導助手派遣 事業 (ALT) (稲福・喜久山) No.17	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	小学校英語特例校を現在の恩納小に加え他の 4 校も申請する必要がある。	特例校認定のために恩納校以外の 4 校に申請のための支援をおこなった。また、新学習指導要領の実施に備えて、更なる英語教育を充実させるために JTE を 2 人配置した。	村内 5 校で積極的に情報を共有し同レベルの英語教育が推進できている。	新学習指導要領の先行実施により、時数の確保が難しいため特例校の指定の廃止が望ましい。また、英語教育推進のために英語担当教諭研修会の充実が必要。	B	①現状の内容で継続
対外競技派遣及び 中学校部活動支援 事業 (喜久山) No.18	児童生徒の文化的、 体育的活動「部活動」 の振興を図る。 中学校の文化的、体 育的活動「部活動」の 振興を図る。	今後も継続して各 部活動の充実を図る ため県外等派遣に関 する費用の確保に努 める。 各学校の部活動が支 障なく活動できるよう 消耗品等の予算確保 に努める。	各学校での部活動が 充実し、県内外での 大会への派遣費用等 の予算確保に努めた。 文化的・体育的活動 の充実を図るため部 活動消耗品等の部活 動予算の確保に努 めた。	【山田中学校】 ○九州中学校陸上競 技大会への派遣 【喜瀬武原中学校】 ○全日本ジュニアバ ドミントン大会 ○九州中学生バドミ ントン大会 ○全日本中学生バド ミントン選手権大会 県内外への派遣に 対し、旅費等を補助 することで経済的な 負担を軽減すると 共に、県外等で競 技することにより選 手としての視野を 広げた。 各学校への部活動 予算の配分を行い、 部活動消耗品等の 充実が図られた。	今後も継続して各 部活動の充実を図 るため県外等派遣 に関する費用の確 保に努める。 各学校の部活動が 支障なく活動でき るよう消耗品等の 予算確保に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
標準学力検査 知能検査 hyper-QU テスト 進路適性検査事業 (永川) No.19	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	各学校単位で、活用説明会の講師依頼を行い、hyper-QU テストの活用の充実を図る必要がある。	hyper-QU テストの活用説明会を実施した。 【hyper-QU テスト】 ・学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度で児童・生徒の心理的側面を質問紙法を用いて理解を深めた。	hyper-QU テストの活用説明会を実施することで、児童生徒の実態把握及び指導のための参考資料として更なる活用につなげることができた。 又、hyper-QU テストを実施することにより、児童・生徒理解が深まり、学級経営に活用できた。	hyper-QU テストの活用説明会を実施継続していく。	B	①現状の内容で継続
指定研究事業 (稲福) No.20	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	2年目の最終報告の作成に向け、他校への良き実践事例になるように、支援をしていく必要がある。	前年度発表校の仲泊校の資料を提供し、学校課題の解決を目指す研究の実践を支援した。	恩納校の研究テーマが学校課題解決を反映したものとなり、学校がチームとして運営されてきている。	発表校の成果について全体で共有し、村学推要項と整合性をもたせて各学校で実践する。	B	①現状の内容で継続
小中学校施設整備事業 (大城) No.21	適切な学校の施設整備を行なうことでよりよい教育環境の確保する。	恩納校プール改築予定年度において実施できるように関係機関及び関係課との調整を図る。	県と公立学校施設整備事業長期計画を調整した。	利用しやすい施設になるよう学校教諭等の意見も取り入れ設計業務を終え、事業計画どおりに次年度に工事着手が可能となった。	学校運営に影響が少ない工程等で工事を実施する。	B	①現状の内容で継続
キャンプ・ハンセン関連再編関連特別事業 (大城) No.22	給食センターの食器食缶洗浄機等の入れ替えを行うことにより、生徒等に安心・安全な給食を提供する事が出来る環境整備の確保。	老朽化により食器食缶洗浄機等の故障が生じてきている。	学校運営に支障が無いように、夏休み期間に備品購入を行い、取り替えることができた。	生徒等に安心・安全な給食を提供することにより、生徒の健全な発達及び健康の増進に寄与できた。	備品の衛生管理に努める。	A	③事業の完了

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
学校施設維持管理 事業(大城) No.23	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことでよりよい教育環境の確保	施設の老朽化が一部進んでおり、中学校統合を考慮して施設修繕等を実施しながら、施設の長寿命化を図る。	優先順位及び予算を考慮して修繕を実施した。	安富祖校体育館雨漏りの修繕、各学校消防用設備等の修繕を実施した。	優先順位及び予算を考慮して、学校運営に支障が無いように維持管理に努める。	B	①現状の内容で継続
恩納村立中学校適 正規模推進事業 (恩納村教育振興 審議会答申) (石川・大城) No.24	少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年 1 学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事務事業を実施する。	平成 28 年度より、本格的に測量や基本設計等の予算を要する業務が生じるため議会への予算説明及び教育委員会並びに総合教育会議での協議・調整を図り、平成 32 年 4 月開校に向けた取り組みを計画通り実施していく。	用地造成及び測量設計委託業務と建築・外構基本設計委託業務を実施し、議会及び村当局、村教育関係者、各区長に配置計画等の選定及び報告を実施した。	中学校統合の教室配置計画作成に関して、村内各学校より教室配置等の意見聴取を行い、基本設計に反映できるところは取り入れた。 議会及び村当局、村教育関係者、各区長と配置計画等を確認したことで、今後の開校に向けた事業進捗状況を共有できた。	平成 32 年度中学校統合の開校にむけて、用地購入、建築及び外構実施設計等を計画通りに取り組む。又、ソフト面の事業強化を図るため。中学校統合準備室の設置を人事担当部局と検討し、設置に向けた取組を要する。	A	①現状の内容で継続

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業 (4 団体) (紀彦) No.1	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等とおして、健全な青少年の育成を図る。	幅広く社会教育団体及び各種ボランティア団体等へ事業の周知を行う必要がある。	前年度同様、子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体等への周知を行った。	各団体への助成を行った。 ・社会教育団体 3 団体 (読み聞かせサークル 2、リコーダーサークル 1) ・放課後子どもクラブ 1 団体 (仲泊放課後子どもキッズクラブ)	引き続き、本助成事業をより多くの団体へ活用してもらうための周知。	A	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業(紀彦) No.2	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。 (アメリカホームステイ) 中高校生対象: 5 名、但し、応募が少ない場合には大学生の応募も対象可) (アジア圏内[台湾]交流事業: 総勢 15 人①村立小中学校児童生徒 10 人②引率者 5 人)	アメリカホームステイについては、派遣人数の割に毎年応募者が少ない。周知案内拡大等を検討する必要がある。 アジア圏内交流事業については、派遣先での授業体験、文化交流のみの内容となっている。グローバルな視点の育成を図るうえで、視察等も組み込む必要がある。	アメリカホームステイについては、村防災無線や村広報誌等の活用。また、近隣高校への募集案内を行った。 アジア圏内交流事業については、前年度に引き続き、タイムスケジュールの変更や、事業内容の変更を行い、児童生徒の負担の軽減を図った。	アメリカホームステイは、前年度応募 10 人に対し、今年度は 14 人で 4 人増となった。 派遣実績 高校生: 2 名、中学生: 1 名 アジア圏内交流事業では、行程を若干見直し台北視察を取り入れた。アジアでも最大規模の都市を視察したことにより、国際性を育むうえで、児童生徒にとってより良い視察となった。また、帰国後研修を実施することにより事業報告会、学推実践発表大会において、スムーズな発表が行えた。 派遣実績 小学生: 9 人、中学生: 1 人	家庭の経済状況により申し込み自体を断念する等、子どもの貧困対策も含め、様々な状況に応じた事業展開を進める必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業(紀彦) No.3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをおして社会性を身につけ、また、生活に必要な基礎的スキルを身につけ、自立を促し健康で心豊かな青少年の育成を図る。	事業を通じてジュニアリーダー参加者の育成に繋げる事業と位置づけているが、参加者に片寄りがある。今後はバランスよく参加者を募り、リーダーの育成に繋げる必要がある。	村子連と連携し、青少年の関わる事業等においてもジュニアリーダーをスタッフとして活用し、子どもたちと交流する場を作ることで活動を理解させ、今後の参加を促していく。	今年度も大きな事故もなく事業を実施することができた。 参加実績 6年生：34人 ジュニアリーダー：17人 スタッフ(延べ)79人 教育委員会 40人 村職員 27人 スポーツ推進員 12人	事業を通じてジュニアリーダー担い手の育成に繋げる事業と位置づけている。村内全域からジュニアリーダーをバランスよく募り、リーダーの育成に繋げる必要がある。	A	①現状の内容で継続
成人式事業(紀彦) No.4	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図るため、式典及び交流会を実施する。	今回の式典では問題行動等は無かったが、今後発生した場合の対応等式典・祝賀会の内容について検討を継続する必要がある。 また、引き続き祝賀会を実施していくのであれば、実行委員会主体による事業企画・運営を図る為の組織作りを検討する必要がある。	今年度も村青年団協議会と連携し早めに実行委員会募集を行った。 問題行動については、その疑いがある新成人を式典会場への立入を禁止する厳しい措置を引き続き検討していく。	問題行動等も無く、事業が実施できた。 成人式祝賀会実行委員：9人 新成人該当者：115人 成人式参加者：88人	今後も祝賀会を実施していくのであれば、実行委員会主体による事業の企画・運営を図る為の組織作り。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
社会教育教室 (うんな大学) (全 10 回) (紀彦) No.5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。 また、本講座での学習成果を学校地域支援事業へ繋げ、本村における教育資源の素晴らしさの再発見とボランティア活動における人材育成を図ることを目的とする。	対象者を村内在住、在職、在学者としている。 次年度も引き続き対象者のニーズにあった講座設定や、習得した技術を今後に生かすためのシステム(サークルや、クラブ結成等)を形成する。	前年度に引き続き、前半、後半に分けて講座を実施。 前半は、これまで受け継がれてきた「しまくとうば」の重要性、大切さを再認識させ、次世代への継承を目指す。 後半は、多様化する生涯学習ニーズに対応するため、様々な視点から講座を実施し、今後の生涯学習への意欲向上を図り生涯教育資源の発掘を目指した。	○しまくとうば教室 全 5 回 延べ 39 人 村文化協会と、タイアップし実施。今年度は生涯学習成果発表会において、受講生による舞台発表も実施し、講座の PR も行った。 ○生涯学習発掘教室 全 5 回 延べ 44 人 全 5 回、4 教室を実施。 ・アトラ心理学講座 ・整理収納講座 ・手帳活用術講座 ・マナー講座	対象者のニーズにあった講座設定をめざし、引き続き多様化する生涯学習に沿った講座の開催を図る。	A	① 現状の内容で継続
いきいき女性教室 (全 5 回) (紀彦) No.6	学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする教室を開催する。	対象者を村内在住、在職、在学者としている。 次年度も引き続き対象者のニーズにあった講座設定や、習得した技術を今後に生かすためのシステム(サークルやクラブ結成)を形成する。	女性層のニーズにあった講座の選定や、今後の講座設定に繋げるため、他市町村から情報収集し、多種多様な講座を設定した。	○グリーンスミージー作り講座 2 回 延べ 13 人 ○気質学講座 1 回 19 人 ○樹脂粘土細工 全 2 回 延べ 25 人	対象者のニーズにあった講座設定をめざし、多様化する生涯学習に沿った講座の開催を図る。	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
地域リーダー研修 (全 1 回) (紀彦) No.7	組織づくり支援・地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援 ※前年度実施した人材育成研修から名称変更	各種社会教育団体及び関係機関と連携し、地域リーダー育成を進める必要がある。	P T A とタイアップし事業を実施。 次年度以降も社会教育団体等と協力して、地域リーダー育成に取り組む。	各校 P T A 会員及び役員を中心に実施 ○親の学びあいプログラム 受講者 25 名	継続して関係機関と連携し、地域リーダーを育成する。	B	①現状の内容で継続
楽しく子育て教室 (全 6 回) (紀彦) No.8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり・仲間づくり・親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	子育て支援センター利用者に限らず、家庭における保育者等へ情報提供、仲間作り、居場所づくりの手助けが必要であり、関係団体等ともタイアップし、それら対象者への周知を図る。土曜日、日曜日、あるいは夜間の実施に向けて検討を要する。	子育て支援センター、村内保育所と連携して事業を実施し、事業周知に関しても、関係団体及び村広報誌を活用し、教室の開催周知を行った。	子育て支援センター利用対象者及び就学前の保護者世帯を対象に事業を実施。 本事業を活用した子育て世代の保護者同士の情報交換等が進められ、参加者が徐々に増えている。 ・スキンケアとコミュニケーション、誕生学、おもちゃの話、魔法の質問、食育、わらべ歌。 全 5 回 延べ 72 人 土・日曜日、夜間(希望なし)	引き続き保育者等へ情報を提供、仲間作り、居場所づくりの手助けにつながる事業を実施していくこと。	A	①現状の内容で継続
ボランティア養成講座 (全 5 回) (紀彦) No.9	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。	多様化するボランティア活動の中で、どのようなボランティアを養成するのか、限られた講座回数の中で、どれだけ既存のボランティア団体、サークル等へ	複雑化、多様化した社会生活の中で、どのように地域活動や社会に関わっていけるのかを目的に実施。	別講座で実施した事業をボランティア講座でも実施 ・アトラ心理学(勇気づけやカウンセリング)を学ぶ 全 2 回：延べ 37 人	引き続き、限られた講座回数の中で、どれだけ既存のボランティア団体、サークル等へつなげるか。 新しいボランティアへのヒントとなる講座の設定。	B	①現状の内容で継続 (養成が必要なボランティアへ対象変更)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
		つなげる為の講座設定、新しいボランティアへのヒントとなる講座の設定を目指す必要がある。					
公民館講座 (6 講座開設) (紀彦) No.10	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	各種講座の情報提供や、村主催の生涯学習講座の情報提供など、今後も公民館を中心としたコミュニティ形成支援、地域のよりどころとしての公民館活用の増加につながるよう、周知を図る。	これまでの活動実績を活用し広報、周知を行った。 公民館活用へ繋げるため、村生涯学習成果発表会への展示や、舞台発表をとおして、サークル化への助言をした。	○前兼久公民館講座 琉球舞踊講座 全 10 回：延べ 173 人 ○南恩納公民館講座 自然の素材を生かした体験講座（おもちゃ作り、料理、染め物等） 全 10 回：延べ 60 人 ○真栄田公民館講座 琉球舞踊講座 全 10 回：延べ 83 人 ○仲泊公民館講座 小物作り教室 全 10 回：延べ 159 人 ○恩納公民館講座 デイソステップ教室 全 10 回：延べ 112 人	今後も公民館を中心としたコミュニティ形成や、地域のよりどころとしての公民館活用の増加につながるような講座の支援を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
人材育成激励金 支給事業(古堅) No.11	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	周知活動の継続、また必要に応じて他事業との連携を図る。	<p>激励金受給対象者の把握、各字等へ事業周知を行った。</p> <p>周知方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会への要項配布による周知 ● マスコミ等の報道での対象者把握 	<p>山田公民館講座 バーキ作り 全 3 回：延べ 42 人 スポーツ競技は 27 件の支給があった。</p> <p>○スポーツ面 ソフトボール 学生：5 件、一般：4 件 バドミントン 学生：6 件、一般：0 件 陸上、駅伝 学生：3 件、一般：0 件 ゴルフ 学生：5 件、一般：0 件 ラグビー 学生：1 件、一般：0 件 カヌー 学生：1 件、一般：0 件 野球 学生：1 件、一般：1 件</p> <p>○文化面 吹奏楽 学生：1 件、一般 0 件 リコーダー 学生：0 件、一般 8 件 ダンス 学生：1 件、一般 0 件 文化面は 10 件の支給があった。</p>	引き続き制度の周知に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
各種団体への活動支援(紀彦) No.12 文化協会(親泊)	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	各種団体の事業活動の把握に努めるとともに、連携し社会教育活動の推進体制の構築を図る。	各種団体の総会や事業へ参加し、年間の事業活動の把握に努めた。	青少年の健全育成をはじめ、村内で活動する団体へ補助金を交付すること、並びに団体の主催する事業に参加協力することにより事業活動を把握し、支援することができた。 ○青少年健全育成協議会 3,284,000 円 ○子ども会育成連絡協議会 1,910,000 円 ○PTA 連合会 1,585,000 円 ○婦人会 1,045,000 円 ○青年団協議会 443,000 円 ○文化協会 894,000 円	各種団体の活動推進を継続して支援すること。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
No.13 文化情報センター業務(親泊・呉屋)	文化情報センターの開館と開館後の必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスに取り組み、読書活動を推進し村内外の様々な情報を提供する。	①友好図書館との定期的な情報交換 ②適切な蔵書管理に取り組む ③継続的な読書活動の推進に努める ④活動計画の周知と推進 ⑤本やセンターへの関心を高めるイベントや図書の特集を継続的に行う	①広報の定期的な相互送付と相互登録に取り組んだ 友好図書館コーナーの蔵書管理に取り組んだ ②継続的に資料の購入・収集、登録に取り組んだ ③継続的な本の特集コーナー等の設置や関係機関と連携したイベント等の実施に取り組んだ ④施設内でのポスターの掲示、ホームページや村広報誌でのイベントの周知に取り組んだ ⑤各種イベントの実施や図書の特集コーナーの設置	①文化情報センターの1周年記念両館でイベントを行った。 ・石狩のカードを作ろう ・恩納村のカードを作ろう 両館50名ずつ (合計100名) ②年間増加冊数 14069冊 ③④ 入館者数 83,168人 (68,684人) 貸出人数 29,096人 (21,696人) 貸出冊数 95,071冊 (68,902人) 登録人数 2,074人 (3,392人) 蔵書累計冊数 52,568冊 (38,499冊) (前年度数値) ⑤本の特集 「次の本へ」他 89テーマ ・企画イベント 「海辺のナイトシネマ」「まっくらおばけさがし」	本の取り扱いにも注意してもらえよう啓発を行う	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
		⑥遠隔地域の利用者 拡大と利便性の向上	⑥恩納村役場、名嘉真公民館、喜瀬武原公民館、安富祖公民館へ返却ポストを設置し利用者の利便性の向上に取り組んだ	「総領事館共催イベント ゾウドキュメンタリー&子どもの国飼育員トーク」 他 16 回実施 ・池澤夏樹講演会 約 94 人参加 ・1 周年スタンプラリー 298 人参加 ・おはなし会の定期的な開催 毎週土曜日実施 47 回 合計 376 人参加 ・なごサイエンスフェスタ への出展 426 人	⑥公民館への団体貸出の推進		

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成27年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成28年度の取組み)	事業の成果 (平成28年度の成果)	今後の課題 (平成29年度の課題)	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実(古堅) (体力テスト) No.1-1	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進と相互の親睦を図る。	福祉健康課及び学校と連携しながら、スポーツ推進事業を実施できるよう連携していくこと。	福祉健康課等と連携し、体力テスト以外の事業も実施できないか調整を行った。	健康福祉まつりで体力テストを実施し、健康増進の意識高揚につながった。 体力テスト 参加者：9人(39人)	他機関と連携しながら、スポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開すること。	B	①現状の内容で継続
(スポーツ教室) No.1-2	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、ニュースポーツ体験や健康運動指導、交流をとおして健康増進を図る。	アンケート結果を教室実施に反映させ、村民の参加しやすい教室を実施すること。 期間を短縮して集中型の教室とすること。	夜間に教室を開催し、「ヨガ&ピラティス教室」を南部地区10回、北部地区で10回開催した。また、参加者からの要望や教室の実施方法等の聞き取りを行った。	参加者の健康増進への意識高揚につながった。 北部地区：154人(87人) 南部地区：99人(71人)	参加者の声などを反映させながら、村民の参加しやすい、また興味があるような教室を実施できるよう努め参加者の拡大を目指すこと。		
(壮年バレーボール) No.1-3	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し参加チーム、参加者の人員を増やすこと。	スポーツ推進委員定例会での大会調整、年間日程表による周知活動を行った。	10チームの参加があった。また参加チームに大会運営協力(審判員)をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 申込チーム：10チーム (10チーム)	事業継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図ること。また引き続き参加人員を増やすよう努めること。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
(壮年ソフトボール) (古堅) No.1-4	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図ること。	スポーツ推進委員定例会での大会に向けての調整、年間日程表による周知活動を行った。	参加チームに大会運営協力をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 参加チーム：15チーム (17チーム)	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。		
(ミニバレー) (古堅) No.1-5	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上及び健康増進の意識高揚、併せて村民の交流を図る。	年間日程表に大会日程を掲載し、周知活動に力を入れる。また、総合型スポーツクラブと連携し、大会を運営すること。	年間日程表に掲載し、早めに総合型スポーツクラブと共催に向けて調整した。	総合型スポーツクラブと共催で実施することができた。 参加チーム：13チーム (中止)	今後も継続して、共催できるよう取り組むとともに、参加チームを増やすため、周知活動に力を入れること。		
スポーツ推進委員の資質向上 (古堅) No.2	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	委嘱年数の若い委員への呼びかけ、またスポーツ推進委員がいない字は協力して適任の人材を探し、定員を満たすようにする。	県や中頭地区での研修へ積極的に参加してもらう。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施した。	様々な事業でスポーツ推進委員が中心になって大会運営ができています。個々のスポーツ推進委員の資質向上につながった。 スポーツ推進委員活動数 H28：390人 H27：324人	県や中頭地区での研修への積極的な参加。主催する大会やイベントでスポーツ推進委員を中心に活動できるよう個々のスポーツ推進委員の資質向上に継続して努めること。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取り組み (平成 28 年度の取り組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
恩納村体育協会、 国頭郡体育協会 の活動支援 (古堅) No.3	恩納村及び国頭郡の体 育協会に補助金を交付 し、その活動を支援す ることによりスポーツ の振興を図る。	体協主催の事業展 開、体育施設の利用 等の指導・助言を行 う。	スポーツ振興、競技力 向上に繋がるような事業 展開の提案、施設の有効 活用等の指導助言を行っ た。	今回は新たな事業展開 はなかったが、バドミントン、 ラグビー、バレーボール、 ソフトボールなどで優秀な成績 を収めた。また、社会体育 施設の年間を通しての活 用が見られた。	体協主催の事業展開 及び体育施設の利用等 の支援を継続するこ と。	B	①現状の内 容で継続
村立小中学校体 育施設（プール） の一般開放事業 (古堅) No.4	夏休み期間中、学校施 設を有効活用し、村民 の泳力及び体力の向上 を図る。	開放期間中の水泳教 室は今後も継続して いきたい。	継続してプール開放時 に水泳教室を開催した。	教室実施数及び参加者 安富祖校 3 回 (65 名) 夏休みプール開放事業利 用延人数 768 人 (1,231 人) 安富祖 : 186 人 (232 人) 喜瀬武原 : 100 人 (190 人) 恩納 : 232 人 (319 人) 仲泊 : 155 人 (321 人) 山田 : 95 人 (169 人)	水泳教室を今後も継 続していくこと。	A	①現状の内 容で継続
各種団体等県外 派遣補助事業 (古堅) No.5	村民のスポーツに対 する意欲を向上させ、 各種球技、競技の振興 を図る。	事業を継続し、該 当する団体、個人等 の情報収集、広報誌 の活用、周知徹底に 努める。	派遣事業に該当する団 体の情報収集、広報誌等 の活用、字への情報提供、 周知徹底に努める。	○小中学生 水泳 1 件 (個人) バドミントン 2 件 (ダブルス 1 件、シングル 1 件) 陸上 1 件 (個人) タグラグビー 1 件 (1 チーム)	事業を継続し、該当 する団体・個人等の情 報収集及び学校を通じ て児童生徒への周知徹 底に努めること。	B	①現状の内 容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
村体育施設維持 管理事業(古堅) No.6	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていただけるよう指定管理側と連携する。	施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題点解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。	施設維持管理については、利用者からも好評で利用数も高い水準を維持している H28 利用者 115,910 人 利用回数 (2,161 人) H27 利用者 91,910 人 利用回数 (1,933 人) ○自主事業 ・女子軟式野球大会 (5 チーム)	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていただけるよう指定管理者と連携すること。	A	①現状の内容で継続

(4) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
学力向上推進事業 地域学習塾支援 (稲福・宮里) No.1-1	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもを育成を図る。	15区の中で、2地区実施できていないので、実施に向け支援が必要である。	実施できなかった地区の実情を把握し、全地区実施のため支援を継続して行う。	各支部ともに、各区の運営課題を解決する方策を立て実践し、事業の効果が高まった。	地域のニーズに合わせた学習塾支援の在り方。		
学力向上推進事業 石狩市中学生交流 (宮里) No.1-2	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	石狩市と早めに連絡を取り合い、より良い交流事業を展開出来るよう調整する。	石狩市と早めの事務調整を行い、より良い交流事業になるよう企画した。	沖縄または恩納村でしか体験できない事業内容、また民泊受入家庭の協力もあり良い交流体験ができた。	応募者数が減っている為、保護者負担金の減額や家庭での受入方法等を検討していく必要がある。		
講演会 (稲福) No.1-3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	今後も、保護者や地域のニーズ調査を行い、聴講者が望む講演会の実施を検討する。	キャリア教育充実の視点から、学びをたしかめつなく集いの講師に文科省調査官、長田徹氏を招聘した。	充実した内容の講演会となり、多くの保護者や地域の方々が参加した。	村の学校教育に関する課題解決を図るための講演会を企画する。		
県外先進地視察研修 (稲福・永川) No.1-4	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	秋田県やその他の県外教育機関との関係を継続する。	教育委員会事務局2人で、文部科学省におけるコミュニティ・スクールに関するフォーラムに参加した。	コミュニティ・スクールの実践事例等を聞くことで、導入のメリットや運営のポイント等を確認することができた。	次期学習指導要領実施に向けた情報の収集を行う。		

A

①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
学推実践報告会 (稲福・永川) No.1-5	恩納村学力向上推進の取組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	公民館や学校との連携を継続し、参加者の増加を今後も図る必要がある。	学校及び各区への参加割り当てを示し、参加者の増加を図った。	各学校の学推の取組み及び各種事業に関する発表により、村学推の取組みの成果を確認することができた。	今後も公民館や学校との連携を継続し、参加者の増加を図る。		
諸検定料支援 (宮里) No.1-6	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	村内に在住おり私立等に通う児童生徒にも助成の範囲を拡大していく必要がある。	私立学校へも補助を拡大し実施した。	上位入賞者も増えている。 受験者数(合格者数) 英検:292人(117人) 漢検:586人(313人) 数検:217人(115人) 理検: 2人(一人) 合格率 小学校 65% 中学校 34% 全体 50%	検定・学校間での取組みに差がある。また、各学校担当教諭に負担がかからないような取組方法を考えていく必要がある。		
未来塾 (稲福) No.1-7	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	生徒からの塾開始の時期を早めてほしいとの要望があるので、開始時期の検討が必要である。	生徒からの要望に応じて、開始時期9月に早めた。	5校において、意欲的な参加が多く見られ、学力向上に結びついた。	9月開始の状況は、講師となる学生(名桜大学:H24連携に関する協定書を締結)の夏休みと重なるために学生の確保が困難である。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取り組み (平成 28 年度の取り組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
スキルアップ研修 (永川) No.1-8	各学年・教科 1 人体制と いう課題を解決するため、 村内職員が協力して協議 し、互いの資質・能力を高 めるために行う。	部会によっては、ス キルアップ研修会の 取り組みに差があり、 改善が必要である。	授業実践を中心とした 取り組みを行っている部 会を紹介することで、他の 部会へ波及を図る。	授業実践を中心とし た取り組みを行ってい る部会を紹介すること で、取り組みの方向性 を浸透することができ た。	研修会を通して、 授業実践を中心とし た取り組みとなるよ う周知徹底してい く。 今後も広報の充実 を図る。		
各種コンクール (稲福・永川) No.1-9	各種コンクール事業を開 催することにより、児童生 徒に発表の機会を与える。	各種コンクールの結 果を村の広報に掲載 するなど、広報活動の 更なる充実が必要で ある。	作品募集に関して、村の 定例校長会及び教頭会で 周知を図る。	広報の充実により、 コンクールへの積極的 な出展が見られた。			

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
博物館運営 (後藤) No.1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	増加した博物館利用者を維持していきけるよう、引き続き文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などの企画をとおした来館者・リピーターの獲得に努める。 ○開館から 15 年を迎えるのにあたり、不具合が目立つ施設設備の更新や改修を行いながら、博物館利用者が利用しやすい施設を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な内容の展示会や講座を企画し、開催した。 ・サークルの活動支援(練習場所、発表会開催の支援)等で、村民の施設利用の増加を図った。また、県中部保育士会など各種団体等への研修室貸出で施設利用の促進を図った。 ・学校授業での利用では村内外を問わず受け入れをし、多くの利用があった。人数や時間に合わせ、解説や民具に触れる時間を設けるなど、工夫を行った。また、教職員の研修の講師を引き受けるなどした。 企画展示室、研修室の空調設備の入替工事を実施した。	博物館利用人数 16,845 人(前年度 14,957 人) 内訳 入館者 14,095 人 (前年度 12,439 人) 施設利用者 2,750 人 (前年度 2,518 人) 主な 5 回の展示会、5 回の講座の他にも作曲家・渡久地政信資料展などの開催にも協力し、来館者の増加を果たせた。 団体の利用では、村内の学校の利用の他、入館料の無料化が定着し、村外の学校や高齢者デイサービスの利用などが増加している。 また、大正琴サークル、朗読サークルの練習の定着、自主発表会の開催による村民の利用のほか、リコーダーサークルのコンサート、中部保育士会、学校図書館司書の研修会等の利用もあり、施設の活用でも成果があった。	社会教育施設として、村民により広く活用してもらえよう文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などを企画していく。 また、引き続き、不具合が目立つ施設設備の更新や改修を行いながら、博物館利用者が利用しやすい施設を目指す。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
企画展・展示会 (後藤) No.2	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めるとともに、事業の見直しなどを行いながら、より魅力的な展示会を開催していく。また、広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展にも取り組んでいく。	①企画展「小蛾類の世界」 沖縄市立郷土博物館より展示資料を借用し、小蛾類を紹介する展示会を開催した。村内で採集された標本なども数多く展示した。 ②慰霊の日企画展「体験者の証言からみる恩納岳の戦闘」 恩納村の戦争体験者の証言の中から恩納岳での体験を中心に紹介する展示会を開催した。 ③企画展「仲泊遺跡展－時代と共にあゆむ遺跡の歴史－」 仲泊遺跡の国指定 40 周年を記念して、遺跡やその保存運動などについて紹介し、文化財愛護思想を啓発する展示会を開催。 ④芸祭写真選抜展 県との共催事業。開催期間を昨年昨年並みに確保し開催。	①企画展「小蛾類の世界」 4/19～5/29 に開催 (32 日間)。期間中の来場者 1,684 人 ②慰霊の日企画展「体験者の証言からみる恩納岳の戦闘」 6/14～7/3 に開催 (17 日間)。期間中の来場者 888 人 ③企画展「仲泊遺跡展－時代と共にあゆむ遺跡の歴史－」 9/22～10/23 に開催 (26 日間)。期間中の来場者 1,348 人 ④県芸祭写真選抜展 12/6～12/18 に開催 (12 日間)。期間中の来場者 615 人	継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めるとともに、事業の見直しなどを行いながら、より魅力的な展示会を開催していく。 また、28 年度は実施できなかったが、広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展の開催などを検討していきたい。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
			⑤新収蔵品展 平成 25～27 年度に収蔵のあった資料を展示し、お披露目を行った。	⑤新収蔵品展 2/14～3/20 に開催 (32 日間)。期間中の来場者 1,263 人			
博物館講座 (親泊) No.3	博物館主催の講座を通して、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	恩納村の特色を活かした講座のメニューを企画し、より多くの村民に参加してもらえるよう取り組んでいく。	①沖縄戦証言朗読会 村民の戦争体験の朗読をとおして、当時の状況について紹介した。 ②海藻おしばづくり 村内で採れる海藻を利用したおしば作りの工作を行った。 ③土器づくり 仲泊遺跡展のプレイベントとして、土器づくりの講座を実施した。参加者には土捏ね、成形、野焼きまでを体験してもらった。	①沖縄戦証言朗読会 6/26 開催。参加者 12 人 ②海藻おしばづくり 8/14 に開催。参加者 20 名 (子供 14 人、大人 6 人)。 ③土器づくり 8/6、7、21 の連続講座として開催。参加者 18 名 (子供 10 人、大人 8 人)	引き続き、恩納村の特色を活かした講座のメニューを企画するとともに、広報などを見直し、より多くの村民に参加してもらえるよう取り組んでいく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
			<p>④バーキ作り 新規受講者を募集し、材料の加工～製作までの一連の作業を行う竹かご作りの講座を実施した。また、過去の受講者にも参加を呼びかけ、技術習熟を図る機会とした。</p> <p>⑤写真選抜展作品講評会 県芸祭写真選抜展の作品講評会を開催</p>	<p>④バーキ作り 11/26,27 に開催、参加者 15 人（うち、新規受講者 9 人、経験者 6 人） ※募集定員 15 人 材料となる竹の自生地についても村民から情報を得ることが出来た。</p> <p>⑤写真選抜展作品講評会 12/11 に開催。 参加者 17 人</p>			
サンセットコンサート (後藤) No.4	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	博物館の立地を活かしながら、村民が気軽に来場できる企画を開催し、質の高い芸術に触れる機会を提供することで、継続して文化活動の向上に貢献していく。 また、可能であれば、村内の人材なども活用していきたい。	初めての試みとして、2部構成にし、1部は金管楽器による屋外コンサート、2部は前年度までに実施した管楽、弦楽を合わせたアンサンブルの編成にてコンサートを企画。県立芸術大学 OB など構成される「琉球交響楽団」に出演を依頼し、質の高いコンサートを提供できるよう取り組んだ。	H29 年 3 月 18 日（土）に開催。来場者は第 1 部 102 人、第 2 部 106 人、計 208 人（前年度 110 人） 屋外での開催は初であったが、当初想定の 50 人を超える来場があった。アンケート結果も好評であった。	次回以降は村民の来場者を増やしたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
『恩納村博物館年報』(第 10 号)の刊行(後藤) No.5	博物館のこれまでの活動に関する情報をまとめることで、今後の活動や方針を決定する際の指標とすることができる。また、将来的な資料作成も兼ねる。博物館紀要と隔年にて作成している。	博物館活動について、情報のまとめ方や掲載する内容について検討する。	展示会・講座などの様子が分かる写真や展示配置図などを積極的に掲載する。博物館の運営・利用状況が分かる資料の掲載に努める。文化財担当の業務についても同時に収録する。	平成 26・27 年度の活動を収録した『恩納村博物館年報』第 10 号を刊行した。今回、初めて文化財担当の業務についても収録し、充実した内容となった。	博物館の運営・利用状況、文化財業務が分かる資料作りを目指し、今後の活動に役立てられる資料作りに取り組む。	A	①現状の内容で継続
地域伝統芸能等保存事業 (新規) (親泊) No.6	一般財団法人「地域創造」の事業を活用し、地域に伝承される伝統芸能等の映像を記録することにより、今後の更なる伝統芸能の伝承及び地域活動を支援する。		29 年度において恩納区の豊年祭を対象に映像記録事業を計画。事業採択に向け申請業務に取り組む。	恩納区と調整し、申請することの承諾を受け、事業採択に向け申請を行った。 ・12 月 22 日事業の助成内定を受け、4 月 3 日に助成決定通知を受けた。	事業の実施に向け、地域との連携を密にし、円滑な事業の推進に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
文化財普及事業 (崎原) No.7	恩納村の共有財産である文化財の普及及び活用を目的とし、文化財保護愛護思想の啓発を図る。	恩納村の文化財に触れる機会を展示会及び普及活動を企画し実施する。	①歴史ロードを歩こう事業 適切な安全管理を目標に実施し、地域ガイドも活用し実施。 ②文化財めぐり事業 村内の文化財めぐりを実施。村内公募で事業を実施。 ③仲泊遺跡展 博物館との共同で仲泊遺跡の展示会を開催 ④やんばるの民俗芸能恩納村の民俗芸能 国頭地区文化財行政連絡協議会の巡回展に併せ恩納村の民俗芸能の周知及び活用を図る。	①歴史ロードを歩こう事業 5月14日に実施。参加者 52人。次回も参加したいという意見が多く寄せられた。 前年度(H27)参加者：50人 ②文化財めぐり事業 3月25日に実施。16人参加 前年度(H27)参加者：15人 ③仲泊遺跡展 9月22日～10月23日 見学者：1348人 ④やんばるの民俗芸能恩納村の民俗芸能 1月31日～2月19日 見学者：562人	村内の文化財の周知及び普及に努める機会として継続して村内の文化財普及活動を企画し実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
山田城跡整備事業(崎原) No.8	国指定史跡 山田城跡の整備に向けて取り組む。	保存管理計画書の課題や整備基本計画策定に向けて取り組む。	整備に向けて字山田で住民説明会を実施し、公有地化や現況の文化財調査を実施する。	字山田で説明会を実施、公有地化へ向けて調整し平成 29 年度から事業を開始する。現況調査も実施する。	公有地化に向けて不動産鑑定を実施し、公有地化事業を図る。継続して現況調査を実施する。	B	①現状の内容で継続
恩納村文化財指定業務(崎原) No.9	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。	村指定文化財の増加を図り、公開・活用を図りたい。	村指定文化財の増加に向け、所有者承諾をとり文化財保護審議会にかけ、村指定文化財の増加に向け取り組んだ。	恩納村の印部石(6 個)や恩納間切図等(地図 66 枚)、南恩納の龕(1 点)を村文化財保護審議会で審議し、年度内に村指定文化財 3 件が新たに指定となった。	引き続き、村内の文化財指定候補の選定、指定に向けて取り組み、公開・活用を図りたい。	A	①現状の内容で継続
万座毛保存管理計画策定事業(崎原) No.10	沖縄県名勝、天然記念物の指定範囲である万座毛の保護・活用を行うため保存管理計画策定事業を実施。 27 年度～29 年度事業	万座毛の文化財的価値などの調査を実施し、委員会の意見を取り入れ保存管理計画書の作成に向けて取り組む。	自然調査(地質・動物・昆虫)などの調査を実施し、保存管理計画書の作成に向けて委員会を実施した。	平成 28 年度は、沖縄県、関係各課と調整し、委員会を 2 回実施。保存管理計画事業に伴う審議を重ねた。	植物調査及びコンサル業務委託を実施し、計画書の作成に向けて委員会を開催する。	B	①現状の内容で継続

(6) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
栄養教室の開催 (比嘉和智) No.1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	年間指導計画に則り授業を行うように努める。各学校への巡回指導の充実を図る。村内各校における授業への参画及び講話等の開催の継続。	食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図り、食育授業を行った。各学校で給食時間を利用し栄養指導を行った。 【講話・食育授業】 試食会講話 村内各幼稚園 1回 恩納小学校 1回 仲泊小学校 1回 食育授業 喜瀬武原小学校 4回 喜瀬武原中学校 1回 安富祖小学校 6回 安富祖中学校 1回 安富祖幼稚園 1回 恩納小学校 4回 恩納中学校 2回 山田小学校 1回 【朝食摂取率】 28年9月調査 恩納小学校 毎日食べる 76.1% 食べない日がある 22.4% 食べない 1.5%	子供たちが食に対する関心を持ち、栄養に関する知識や食事の大切さを学んだ。	年間指導計画に則り授業を行うように努める。各学校で保護者も含めた食育授業、講話を通してさらに栄養指導の充実を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
村産食材の積極的な活用(比嘉和智) No.2	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	村産食材の物資選定や安定供給ができるように農水関係者との連携を図る。	日頃の食材調達をおんなの駅と連絡調整を行い、年間を通して、地場産物を利用した。また、パッションフルーツ贈呈式、「ふれあい給食」を年間行事として実施した。JAより安富祖米を購入し地産地消の推進を図った。	地場産物を学校給食を通して、子供たちに提供し、食材をつくっている農家さんとの「ふれあい給食」を実施することで、地元の食材への関心が深まった。	年間を通して地産物を利用しているが生産量が少なく安定供給が出来ていないため継続して農水関係者と連携を図る。	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進(比嘉和智) No.3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	小中学校への見学実施にむけた行事調整。	幼稚園児の調理場見学に向けた事前調整と実施。小中学校の行事調整を行った。	幼稚園児の調理場見学を実施し、給食が出来るまでの工程を理解し、給食に対する関心を高めた。	今後も継続して幼稚園、小中学校への見学実施にむけた行事調整を行う。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (平成 27 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (平成 28 年度の取組み)	事業の成果 (平成 28 年度の成果)	今後の課題 (平成 29 年度の課題)	評価	総合判断
給食費徴収率の向上(比嘉和智) No.4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。	口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨し、期限内納付の周知を図る。長期滞納者への督促の強化。	口座振替納付を推奨するため、入園・入学オリエンテーションで周知を行った。滞納者に対し、電話督促や督促状発送を行った。児童手当の天引き制度の周知を行った。県内各金融機関での窓口収納、コンビニ収納を行った。	口座振替利用率が前年度比 3%程度増えた。コンビニ収納件数 619 件 ○現年度分徴収率 95.95% ○過年度分徴収率 20.93%	口座振替を推奨していくことと、コンビニ収納サービスの周知を図り、滞納者に対しては、期限内納付の周知を図る。長期滞納者への督促状の送付等の強化を図る。又、準要保護対象の保護者の未納が目立つため、準要保護対象保護者への申請を事務局担当職員と連携し、制度利用の周知を推進する。	B	①現状の内容で継続
恩納村第 3 子以降学校給食費免除(比嘉和智) No.5	出生率の向上や保護者が安心して子供を産み育てることができる環境づくりを促進するとともに、保護者の負担軽減を図るため、第 3 子以降の学校給食費の免除を実施する。	新規事業	恩納村第 3 子以降学校給食費免除実施要項制定を行った。第 3 子免除申請受付開始。	恩納村第 3 子以降学校給食費免除。 対象者 114 名 申請、決定者 幼稚園生 23 件 小学生 50 件 中学生 1 件 申請率 65% 平成 29 年度学校給食費より免除。	恩納村第 3 子以降学校給食費免除制度を周知を徹底し、対象者全員が申請できるよう努める。又、過去に未納があると免除を受けることができないので、未納者への督促機会を増やし、収納率の向上とともに制度実施する。	A	① 現状の内容で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会(平成 29 年度 7 月 21 日現在)

役 職	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	仲 本 政 夫	平成 29 年 7 月 21 日～当該事務事業年度完了まで	元教育委員・元中学校教諭
副 委 員 長	真 栄 城 慶 子	平成 29 年 7 月 21 日～当該事務事業年度完了まで	元村子供育成会会長
委 員	安 里 周 作	平成 29 年 7 月 21 日～当該事務事業年度完了まで	恩納小中学校 PTA 会長・恩納区子ども会

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、平成 29 年 7 月 27 日(第 1 回)、8 月 9 日(第 2 回)、8 月 18 日(第 3 回)に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また第 3 回事務事業点検外部評価委員会(8 月 18 日)には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたしました。

記

① 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、課長及び事業担当者からのヒヤリングを行い、事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。点検評価においては、今年度で 8 年目となり、当初の点検評価に比べると課題への取組や事業の成果を概ね達成しており、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺え、過去に指摘されていた記載内容及び方法が適切に改善されていました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、今までの P D C A サイクルに R (リサーチ：情報収集)を付与し、調査・研究も含めた事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要と考え、村民のニーズを的確に捉えた事業の実施に繋げていけるよう努力を促したい。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思えます。

② 事務事業の評価について

今回は、事業の集約評価を実施した結果、事業評価事業数が 59 件となり、事務事業の内部評価を点検しました。前年度に比べ事業評価数は、評価対象事業の一本化で 2 件は、減少したものの実質事業数は、前年度並みとなっております。取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと理解し

し、評価事業数においては、平成27年度事業より、内容が類似している事業においては、集約を行い、評価事業数は減少しており、平成27年度に指摘を行った、評価事業の集約については概ね改善されたと理解しております。

また、各事業の実施の際、例年の課題である対象者への事業の効率的な周知のあり方について更に、再検討し、事業効果及び事業への参加者が増えるよう対策を講じていただきたい。

なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関連所管事業においては、学校評議委員設置事業、校長会・教頭会、学校計画訪問、幼稚園教育の推進、就学支援事業、教育の情報化コーディネーター、学習支援員配置事業、英語指導助手派遣事業(ALT)、標準学力検査(知能検査：hyper-QUテスト)進路適性検査、指定研究事業、小中学校施設整備事業、学校施設維持管理事業においてB評価となっており、次年度より更に充実した事業実施を展開していただきたい。高評価の事業としては、教育相談事業において相談員の学校への派遣等を行い、不登校児童生徒への登校につなぐ対応や奨学資金貸与事業の貸付及び償還事務、特別支援教育関連事業、対外競技派遣及び中学校部活動支援事業、給食センター食器食管入替(再編関連特別事業)、恩納村立中学校適正規模推進事業を高く評価し、平成28年度事務事業の成果として評価します。

社会教育関連所管事業においては、国際交流派遣事業の充実、成人式事業、地域リーダー研修、ボランティア養成講座においてB評価となっており、事業実施に伴う、参加者数の改善に取り組むよう周知を強化するよう展開していただきたい。文化情報センター業務は、予想以上の来館者への貸し出し等あり、S評価とし、高く評価いたします。

社会体育関係所管事業においては、昨年と同様に各種社社会体育事業の充実を集約(5事業→1事業)し、6事業の評価を行いました。各種社会体育事業が充実していることを確認しましたが、一部の事業で周知活動が弱く、今後の周知及び広報活動の充実へ期待し、B評価とし、村立小中学校体育施設(プール)の一般開放事業や村体育施設維持管理事業においては、適正に行われていてA評価といたします。

学力向上推進委員会事業においても、昨年度より、9事業の評価を集約し、評価事業数を1事業として評価し、各事業とも学力向上の基礎になる事業と理解しており、今後もより充実した事業として実施していただきたい。また、地域塾及び未来塾は、昨年度から検討していただいている期間及び時期等を調査・研究し、引き続きを学力向上の推進を図っていただきたい。又、講演会事業や石狩市中学生交流においては、保護者の意識向上を目的とした講演会等を開催することを検討し、A評価といたしました。

博物館所管事業においては、文化情報センターの開館と同時に、博物館入館料が無料化され、入館者が倍増していることを評価しますが、今後は、新しいイベントや村内の子どもたちの発表の場としての活用も含めて、企画の工夫等で入館者の増を期待します。又、沖縄戦証言朗読会は、証言者が可能な限り、引き続き実施していただき、A評価とさせていただきました。文化財関係事業においては、山田城跡整備事業及び万座毛保存管理計画策定事業の進捗を確認しながら、完了時に高い評価が得られるよう期待し、B評価といたしました。

学校給食センター所管事業においては、栄養教室の開催及び村産食材の積極的な活用や朝食摂取率等の調査を各学校で実施し、栄養教育に役立てていけるよう検討が必要と考え、地産地消関連では、「もずく」や「アーサ」の生産地としての産地教育も必要だと考え、B評価といたしました。給食センター見学の推進、給食費徴収率の向上の各事業は、概ね事業目標を達成されていると理解しますが、更なる成果を期待し、給食センター見学の推進及び長期滞納者への督促の強化及び準要保護世帯への制度申請の周知等を図り、給食費の確保を図っていただくことに期待し、A評価といたしました。又、平成29年度より実施される恩納村第3子以降学校給食費免除においては、子育て支援も含めて充実させていただきたい。その他の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見が即効性をもって反映されるように、現年度事業の実施途中で中間的評価点検を取り入れ、実効性のある点検及び評価を行い、実施中の事業に反映されることが望ましいと考えます。又、事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題解決を要する事業については、その課題解決を事業目標に掲げ目標達成に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが低評価の事業を継続していくことを防ぎ、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、村民ニーズに合った高い事業目標を調査及び研究し、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村の更なる教育振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

④ 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって8回目ということで、このシステムについても各担当者に浸透し、今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思っております。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善や効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成29年9月

恩納村教育委員会